



# 令和8年度市政方針

苫小牧市長 金澤 俊



# 令和 8 年度市政方針

## 目次

1 はじめに	
(1) 市政への思い	3
(2) 時代認識	4
(3) まちづくりの姿勢	5
2 重点施策	
(1) 「スポーツ×観光」で拓く にぎわいの新時代	7
(2) 思いやりの心が育む 安心して暮らせるまちづくり	8
(3) 自然と産業の共生による 経済発展の最大化	9
(3) 学ぶ喜びがあふれる文化の薫るまち 教育行政	18
北洋大学	18
国際交流の推進	18
国内交流の推進	19
(4) 自然と環境にやさしいまち 自然環境の保全	19
公害の防止	19
ゼロカーボンシティへの挑戦	19
生活衛生の充実	20
ごみの減量とリサイクルの推進	20
(5) 安全・安心で快適に暮らすまち 居住環境の充実	20
上下水道の整備・健全な維持管理	21
道路の整備	21
公共交通の充実	21
消防・救急体制の充実	21
防災体制の充実	22
河川の保全と環境整備	22
交通安全の推進	22
防犯対策の推進	22
消費生活の安定	23
公設地方卸売市場	23
3 自治体運営に関する取組	
(1) 市民によるまちづくりの推進	11
(2) 健全な行財政運営の推進	11
4 まちづくりの目標に関する取組	
(1) 共に支え合い健やかに暮らすまち 保健予防対策の充実	14
医療体制の整備・充実	14
地域福祉の推進	14
高齢者福祉の推進	15
障がい者福祉の推進	15
子育て支援の充実	15
(2) 明日を拓く力みなぎる産業のまち 工業の振興	16
商業の振興	16
農業の振興	16
水産業の振興	16
林業の振興	16
雇用・労働環境の整備・充実	17
新千歳空港の拠点形成強化と 周辺環境対策の推進	17
港湾整備	18
5 予算編成	24
6 むすび	25
○ 巻末資料（用語解説）	26

# 1 はじめに

## （1）市政への思い

私が市政の舵取りを担わせていただいてから、早一年が経過いたしました。この間、市民の皆様や地域経済を支える皆様との対話を重ねる中で、本市が秘めるポテンシャルの高さを再認識するとともに、解決すべき課題をより鮮明に捉えてまいりました。

これまで、こども どもんなかアクションをはじめ、各施策をスピード感を持って実施してまいりましたが、公約の実現をより確実なものとし、市民の皆様にその成果を実感していただくためには、これからが正念場であると認識をしています。

その思いから、私は令和8年のテーマに“挑戦”を掲げました。

現在、本市を取り巻く環境は、半導体関連産業やGX※分野における企業進出、投資意欲の高まりなど、かつてない追い風が吹いています。

一方で、人口構造の変化に伴う社会保障経費の増加や、公共施設の老朽化対策といった課題も山積しており、財政の手綱を緩めることは許されません。

未来への投資や市民生活に直結する事業には果敢に財源を充てながらも、持続可能で安定した財政運営を確実に進めるという責務を果たしてまいります。

“のびゆく 苦小牧！ 選ばれるまち 苦小牧へ！” このスローガンが、確かな現実として市民の皆様の目の前に現れるよう、私自身がその先頭に立ち、職員一丸となって、困難な課題を突破するための“挑戦”を続けてまいります。

## ■ (2) 時代認識

長引く国際紛争や地政学的リスクの高まり、円安傾向の長期化などにより、エネルギーや食料品価格の高騰が常態化しつつあります。さらには、出生率の低下と人口減少が全国的に深刻化しており、国において子どもや子育て世帯への支援強化、出生率の回復に向けた施策が急ピッチで進められています。

本市においても、人口減少が依然として続いている状況にありますが、一方で、近隣における次世代半導体の量産開始を前に、関連産業の集積が本格化しているほか、大規模データセンターの建設が開始されるなど、人や物の流れに活発な動きが見られます。

また、長年、本市を舞台に実証事業が行われてきたCCS<sup>\*</sup>においては、事業化を見据えた試掘が開始され、社会実装に向けて大きな一歩を踏み出しており、市内各所で進められているGX関連事業とともにゼロカーボン<sup>\*</sup>シティの実現に向け、着実に歩みを進めています。

さらに、市民文化ホールが完成し、まちなかに新たな賑わいの空間が創出されるとともに、駅前再整備に向けた基本計画の策定に着手す

るなど、長年の懸案が希望へと変わり、市民の皆様が変化を実感できる局面にあります。

### ■ (3) まちづくりの姿勢

本年は、全国に先駆けて“スポーツ都市”を宣言してから60周年の記念すべき節目を迎えます。スポーツは、市民の健康増進や青少年の健全育成のみならず、地域への愛着や一体感を醸成するとともに、観光との融合により、交流人口の拡大をもたらす大きな力を持っています。この節目の年に、スポーツ分野の取組を強化し、スポーツ観光都市としてのブランドを、全国に力強く発信してまいります。

北海道日本ハムファイターズのファーム施設誘致に向けた取組についても、胆振・日高地域が広域的に連携した活動を展開しています。本市としても、この熱意を余すことなく球団に届け、誘致の実現に向けたチャレンジを続けてまいります。

公約で掲げている“こども どまんなかのまち”を実現するためには、子どもたちが健やかに育ち、自由に夢を追いかけられる、そのような環境を整えることが不可欠です。そのためにも、これまでの歩みを止めることなく、引き続き全力で取り組み、まちの未来を担う子どもたちをしっかりと支えてまいります。

まちの持続的な発展を支える産業分野においては、市内や近隣における半導体、データセンター、GXなど次世代産業の集積を追い風に、

企業誘致や投資促進に一層取り組み、次なるステージに挑んでまいります。

その上で、未来まちづくり戦略に掲げる“産業振興”、“快適な住環境”、“交通物流”のキーワードに基づき、今後のまちづくりに必要な具体的な施策を積み重ね、交流人口を増加させることにより、魅力のある“選ばれるまち”としての成長を目指してまいります。

また、駅前再整備を着実に進めるほか、統合型リゾート（IR）の誘致については、国から新たな区域認定の動きが示されたことから、引き続き北海道と緊密に連携し、実現に向けて取り組んでまいります。

スマートシティ※の推進に向けては、医療や交通をはじめとする様々な分野においてデジタル技術などを活用し、地域課題の解決や市民生活の質の向上、行政手続きの効率化を図ってまいります。

さらに、本市が将来にわたって成長し続けることを見据え、4月から庁内の組織機構を大幅に見直します。本市の魅力を力強く発信する専門部署を設置するなど、複雑化する行政課題に対して効率的かつ効果的に対応できる組織へと進化させ、市民の皆様と共に希望ある未来を切り拓いてまいります。

## 2 重点施策

### (1) 「スポーツ×観光」で拓く にぎわいの新時代

アイスホッケーをはじめとする本市のスポーツ文化は、全国に誇る貴重な財産であり、良好な競技環境を求めて多くの選手や観客がこの地に訪れるなど、本市の魅力を発信し交流人口を拡大させるための極めて重要な要素です。

令和8年度は、スポーツ都市宣言60周年にあわせ、選ばれるまちプロジェクト第2弾“スポーツシティとまこまいプロジェクト”、略称“スポとま<sup>ピージェー</sup>PJ”を展開し、より多くの市民の皆様にはスポーツに触れる機会を創出するなど、スポーツを通じた地域活性化に取り組んでまいります。

特に7月には、サッカーJ1名古屋グランパスの夏季トレーニングキャンプが実施され、また、12月には、第99回日本学生氷上競技選手権大会が開催されます。どちらもまちをあげて歓迎し、経済波及効果の最大化に努めてまいります。

今後も、夏季の冷涼な気候や交通アクセスの良さといった本市の優位性をいかし、市外の競技団体、企業、大学などの合宿や全国規模の大会を積極的に誘致してまいります。同時に、観光振興ビジョンに基づき、地域の特性をいかした観光の魅力づくりに取り組み、スポーツツーリズム<sup>\*</sup>と地域経済の一体的な振興や、産業拠点都市としての特

徴をいかしたMICE<sup>\*</sup>の誘致に挑戦してまいります。

また、新たな観光振興施策の財源となる“宿泊税”につきましては、令和9年4月の導入に向けた準備を着実に進めてまいります。

## **(2) 思いやりの心が育む 安心して暮らせるまちづくり**

こども どもんなかアクションによる、まち全体で子どもを支える機運の高まりをそのままに、引き続き“こども どもんなか”のまちづくりに取り組んでまいります。

国のこども大綱や北海道の計画を踏まえ、新たに、こどもから若者までを包括的に支える“(仮称) 苫小牧市こども計画”の策定に着手いたします。あわせて、医療的ケア児<sup>\*</sup>への支援、乳児等通園支援制度や宿泊型の産後ケアの導入など、安心して子育てができる環境を整備するとともに、給付金や医療費の助成、さらにはひとり親家庭への養育費確保支援の開始により、子育てにかかる経済的負担を軽減してまいります。

また、安心して暮らせるまちづくりに当たっては、高齢者や障がいのある方への支援を含む、地域福祉の充実は欠かせません。重層的支援体制の整備により、介護、障がい、困窮など複雑かつ複合化した課題に対応するほか、地域包括ケアシステムの推進や、介護現場の生産性向上に向けた伴走支援に取り組んでまいります。あわせて、障がいのある方に対する合理的配慮の普及と雇用の促進を図り、誰もが暮ら

しやすい地域共生社会の実現に努めてまいります。

さらには、3月にオープンする市民文化ホール“アートキューブズ”を、市民のサードプレイス<sup>※</sup>として、また、文化芸術の拠点として魅力を広く発信し、まちの賑わいを生み出す各種イベントやコンサートの誘致を進めてまいります。あわせて、パートナー事業者との公民連携により駅前再整備基本計画を策定するとともに、まちなかへのアリーナ建設に向けた整備手法などの検討を進め、駅周辺の各要素が連動したウォークアブルなまちづくりに取り組んでまいります。

### **(3) 自然と産業の共生による 経済発展の最大化**

世界の潮流となったゼロカーボンへの取組は、地球環境の保全と産業振興の両立を目指す本市にとり、持続的な経済発展を牽引する原動力となります。

試掘が開始された先進的CCS事業や、水素、アンモニアをはじめとする次世代エネルギー拠点の形成など、市内で進行しているGX関連事業について、引き続き事業主体や関係機関と緊密に連携し、ゼロカーボンシティの実現と地域産業の振興に邁進してまいります。

あわせて、国内外の企業に対する情報発信や視察ツアー、トップセールスを交えた戦略的な誘致活動を展開し、苫東エリアにおける次世代半導体関連産業や大規模データセンターなどの更なる集積を図ってまいります。

また、自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例に基づき、安全な生活環境と自然との調和を最優先としながら、遊休市有地を活用した再生可能エネルギーの地産地消に努めてまいります。同時に、昨今のGX施策の進展など、著しい情勢変化を踏まえた環境基本計画の改定を行ってまいります。

さらに、IRを含めた国際リゾート構想については、北海道が“統合型リゾート（IR）に関する基本的な考え方”を改訂する方針であることから、立地自治体として北海道の検討に即応できるよう、構想の更新などを着実に取り組み、本市の将来に向けた新たな価値創造に挑戦してまいります。

### 3 自治体運営に関する取組

#### (1) 市民によるまちづくりの推進

**地域活動の促進**につきましては、町内会運営ビジョンの策定に向け、町内会連合会との協議を深め、町内会が抱える課題の解決を図ってまいります。

**市民自治の推進**につきましては、公民連携を一層強化し、協働のまちづくりを進めるとともに、あなたの街でミーティングや市長とスクールミーティングなどの広聴事業を通じて、多様な世代の声をまちづくりにいかしてまいります。

**男女平等参画の推進**につきましては、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律に規定される支援調整会議を設置し、包括的な支援体制を構築するとともに、多様な性の理解促進に向けた啓発に注力するなど、男女平等参画社会実現への歩みを進めてまいります。

**平和の推進**につきましては、“平和の鐘”の設置を契機とし、非核平和都市条例の理念のもと、平和の尊さを次世代に継承する取組を更に進め、市民の皆様と共に恒久平和の実現に努めてまいります。

#### (2) 健全な行財政運営の推進

**行政組織の活性化**につきましては、こどもに特化した“こども未来部”を設置するほか、新たに“担当部長”を配置するなど、12年ぶり

に大幅な組織機構の見直しを行い、変化する社会情勢と多様化する市民ニーズに的確に対応してまいります。

また、新たな人材育成基本方針に基づき、職員の育成と確保を一体的に進めることにより、持続可能で活力のある組織づくりを進めてまいります。

さらに、コンプライアンス強化月間を定め、外部講師による研修を実施するほか、公益通報制度への理解促進やハラスメント防止に向けた意識の醸成に努め、市役所の信頼性を高めてまいります。

**行政改革の推進**につきましては、とまこまい行革創成プランに基づき、デジタル技術などを活用しながら業務プロセスを見直すとともに、関連業務の最適化やオンライン手続の拡大を図ることにより、行政費用の抑制と市民サービスの向上を両立させ、健全な行財政運営に努めてまいります。

また、DX<sup>\*</sup>推進人材の育成と確保の取組を継続するとともに、職員端末環境の検証を通じ、執務室のフリーアドレス<sup>\*</sup>化や情報共有の円滑化による柔軟で効率的な働き方の実現を目指してまいります。

**財政運営**につきましては、人口減少や少子高齢化のほか、物価高騰や労務単価の上昇などを背景に厳しい財政状況が見込まれています。財政運営持続化計画で定める4つの財政秩序を踏まえつつ、ふるさと納税をはじめとする税外収入の確保に取り組むなど、財政基盤の強化を図り、健全な財政状況を次世代へつなげてまいります。

**広域連携の推進**につきましては、東胆振定住自立圏共生ビジョンに基づき、圏域に必要な生活機能の確保や圏域が有する豊富な地域資源の更なる活用促進に向けて取り組んでまいります。

## 4 まちづくりの目標に関する取組

### (1) 共に支え合い健やかに暮らすまち

**保健予防対策の充実**につきましては、健康寿命の延伸に向けて健康増進計画を着実に実行するとともに、生涯にわたる健全な食生活の実現を目指し、次期食育推進計画の策定に着手いたします。

また、RSウイルス\*ワクチンの定期接種化が予定されていることから、速やかな接種体制の構築に向け、関係機関との協議を進めてまいります。

さらに、客観的なデータに基づく医療資源の現状分析に取り組みながら地域医療情報連携ネットワークの構築を進め、高齢化の進展に対応した医療政策の実現を目指してまいります。

国民健康保険事業においては、特定健診やプレ特定健診の受診率向上の取組を強化し、健康づくりを推進してまいります。

**医療体制の整備・充実**につきましては、市立病院経営強化プランを改定し、救急医療や新興感染症への対応など、東胆振・日高圏域の中核として求められる医療機能を堅守するとともに、安心して出産や子育てができるよう周産期医療体制の強化に取り組んでまいります。

また、医療DX推進室を設置し、患者サービスの向上と医療現場の生産性向上の両立に努めてまいります。

**地域福祉の推進**につきましては、福祉分野の上位計画に位置付けら

れる第3期地域福祉計画が最終年度を迎えることから、各種アンケートやワークショップなど、地域住民の声を踏まえ、次期計画の策定に取り組んでまいります。

**高齢者福祉の推進**につきましては、新たに認知症施策推進計画を策定するとともに、医療と介護を必要とする方や認知症の高齢者が、地域の中で適切にサービスを受けられるよう、地域包括ケアシステムを深化させてまいります。

**障がい者福祉の推進**につきましては、関連する3つの計画の期間を統一し、障がいのある方が地域で安心して暮らし続けられる支援体制の充実を図るほか、障がいの特性に応じた切れ目のない支援と社会参加の促進に努めてまいります。

**子育て支援の充実**につきましては、子ども・若者支援地域協議会の活動促進や構成機関との連携を強化し、特定の年齢で途切れることなく継続して支援を行う“縦のネットワーク”構築を推進してまいります。

ヤングケアラー<sup>\*</sup>への支援においても、小中学校に対する出前講座を積極的に展開するとともに、交流の場づくり事業の更なる充実を図り、ヤングケアラーを地域で支える機運を醸成してまいります。

さらに、いとい北保育園の建設工事に着手するとともに、公立保育園の役割を踏まえた特別保育を推進してまいります。

## (2) 明日を拓く力みなぎる産業のまち

**工業の振興**につきましては、テクノセンターの機器を整備することにより、企業における技術課題の解決や生産技術の高度化を支援するとともに、産学官金の連携を深め、企業の生産性向上に資する新技術の導入や新規事業の創出を後押ししてまいります。

**商業の振興**につきましては、空き店舗活用支援の見直しなど、各種支援策を充実させるとともに、商店街との連携を強化し、地域のにぎわい創出に努めてまいります。

また、市内中小企業を対象にアンケート調査を実施し、経営課題や支援策などのニーズを把握するとともに、中小企業振興計画に基づき、関係機関と連携して事業承継支援を強化するなど、市内中小企業の振興を図ってまいります。

**農業の振興**につきましては、新規就農者の負担軽減や農業者の経営安定化に対する支援を継続して行い、担い手の確保と経営基盤の強化に努めてまいります。

**水産業の振興**につきましては、水産資源の安定確保を支援するほか、関係団体と協力し、子どもたちへの魚食普及を推進することにより、苫小牧産水産物の消費拡大と魅力発信に努めてまいります。

**林業の振興**につきましては、森林経営管理法に基づき、林業経営の効率化と適正な森林経営管理を着実に進めてまいります。

また、木育などを通じて森林と林業に対する市民理解を深めながら、

水資源の涵養<sup>かんよう</sup>\*や生物多様性の保全、二酸化炭素の吸収など、森林の多面的機能が発揮されるよう取り組むことにより、環境負荷の低減やゼロカーボンの実現に寄与してまいります。

**雇用・労働環境の整備・充実**につきましては、新たに市内企業のインターンシップの取組を支援し、企業の受入体制整備や学生とのマッチングを促進するほか、採用活動に要する費用への補助を行い、人材確保を支援してまいります。

また、専門家による相談や助言を通じて企業が抱える課題の解決を図るとともに、障がいのある方や外国人材を雇用する企業に対し、多様な人材が活躍できる環境づくりと人材定着を支援してまいります。

さらに、求職者に対しては、就職に役立つスキルや知識の習得のほか、伴走型の就職支援を行い、人手不足が深刻な地元企業とのマッチングを図ってまいります。

公共工事の発注においては、公契約基本方針に基づき、地元企業の優先活用を図ってまいります。また、早期発注による施工時期の平準化の取組を継続し、建設業における人手不足への対応に努めるほか、電子契約を導入し、事業者の事務負担の軽減を図ってまいります。

**新千歳空港の拠点形成強化と周辺環境対策の推進**につきましては、二次交通の利便性向上や誘客促進プロモーションの実施、北米航空路線の誘致を進めるなど、新たな航空需要の創出につなげてまいります。

また、24時間運用拡大に伴う住宅防音対策を着実に進めるほか、千

歳基地における各種訓練の迅速な情報収集や周知に努め、市民の安全・安心の確保に万全を期してまいります。

**港湾整備**につきましては、東港区周文ふ頭の複合一貫輸送ターミナルを整備することにより、トラックドライバーの労働規制に応じたフェリーダイヤの設定を可能とし、背後圏の貨物需要に対応するとともに、大規模地震発生時における物流機能を確保してまいります。

また、臨海部におけるゼロカーボンの取組においては、これまで構築した海陸輸送ネットワークをいかし、水素やアンモニアなどの次世代エネルギー供給拠点の形成やCCUS\*関連事業など、次代を支える産業集積を推進し、環境価値で選ばれる港湾を目指してまいります。

### (3) 学ぶ喜びがあふれる文化の薫るまち

**教育行政**につきましては、教育大綱の基本理念に掲げる“未来の社会をつくるひとづくり”を目指し、教育行政執行方針のもと各種施策に取り組んでまいります。

**北洋大学**につきましては、大学と緊密な連携、協力のもと、定員充足に向けた学生確保や卒業生の市内企業への就職促進を含めた側面的な支援を行ってまいります。

**国際交流の推進**につきましては、多文化共生指針に基づく施策を展開することにより、国籍や文化的背景に関わらず、誰もが住みやすく、活躍できるまちづくりを進めてまいります。

また、外国人市民との交流や子どもたちの海外派遣事業を通じて、市民の異文化理解の促進や国際的視野を持つ人材の育成を図ってまいります。

**国内交流の推進**につきましては、姉妹都市である八王子市や日光市との交流を進めるほか、はちとまネットワーク事業を通じて八戸市との連携を深め、より一層の発展につなげてまいります。

#### (4) 自然と環境にやさしいまち

**自然環境の保全**につきましては、生物多様性地域戦略に基づき各種施策を推進してまいります。

また、野生鳥獣対策として、特に近年出没が増加傾向にあるヒグマについては、緊急銃猟に備えるとともに、ヒグマゾーニング計画に基づく対応を進めてまいります。加えて、エゾシカ対策として、捕獲を継続するなど、人とのあつれきの防止、低減を図ってまいります。

**公害の防止**につきましては、大気汚染や航空機騒音の常時監視を継続するとともに、事業所への立入調査を通じて、適切な指導に努めてまいります。

**ゼロカーボンシティへの挑戦**につきましては、民生部門の取組として、引き続き、各種市民啓発事業による機運醸成や省エネ、再エネ設備の導入支援、脱炭素先行地域計画の着実な実行などに取り組み、2030年度における二酸化炭素削減目標の達成を目指してまいります。

**生活衛生の充実**につきましては、高丘霊葬場長寿命化計画に基づき、建物や設備機器の改修などを行い、安定した稼働に努めてまいります。

**ごみの減量とリサイクルの推進**につきましては、10月にリサイクルプラザ苫小牧を環境学習交流施設と改め、ゼロカーボンや生物多様性などの幅広い環境テーマと連動した事業を展開してまいります。

また、環境マイスター制度を通じて、市民の環境意識を醸成し、環境行動の実践を促進してまいります。

さらに、学校から排出される給食残さのバイオガス発電<sup>※</sup>への活用を継続し、温室効果ガスの排出量削減に努めてまいります。

## **(5) 安全・安心で快適に暮らすまち**

**居住環境の充実**につきましては、市営住宅整備計画に基づき、日新団地や末広団地の建替事業を継続するなど、管理戸数の適正化を進めてまいります。

また、都市建設部内に“住宅政策室”を創設することにより、これまで分散されていた住まいに関する相談対応や計画策定などの関連する業務を一元化し、市民サービスの向上を図ってまいります。

空き家対策においては、空家等対策計画に基づく取組を進め、空き地管理を含めて、所有者による適正な維持管理を推進してまいります。

さらに、ウトナイ地区において、インクルーシブ遊具<sup>※</sup>をはじめとする大型遊具の設置など、誰もが安全・安心で快適に利用できる勇の

原公園の整備を継続してまいります。

**上下水道の整備・健全な維持管理**につきましては、適切な点検調査により施設の健全性を確認しながら、計画的に耐震化や老朽化対策を推進し、水道水の安定供給と衛生的な都市環境の維持に努めてまいります。

また、近年の物価高騰や労務単価の上昇など、将来の財政シミュレーションに及ぼす影響を検証し、適正な料金水準について検討してまいります。

**道路の整備**につきましては、老朽化が進む舗装道路の改修や橋りょうの長寿命化対策などを計画的に実施し、安全・安心に利用できる道路環境を提供するとともに、維持管理において、スマートフォンによる道路管理者への通報システムを活用し、迅速な補修対応を行ってまいります。

**公共交通の充実**につきましては、東西基幹交通の充実に向けたシミュレーションを行うほか、あいとまタクシーやナイとまバス、通勤MaaS<sup>\*</sup>の実証運行に引き続き取り組むとともに、新たな地域公共交通計画に基づき、持続可能な公共交通ネットワークの構築に努めてまいります。

**消防・救急体制の充実**につきましては、4月から東胆振1市4町における共同指令センターの運用を開始し、消防体制を強化するとともに、マイナ救急<sup>\*</sup>に関する資器材の充実を図り、救急業務の迅速化と

円滑化につなげてまいります。

**防災体制の充実**につきましては、新たな地域防災計画や津波警報の課題検証に基づき、各種マニュアルの見直しや、自動解錠システムの運用を開始するなど、避難所機能の充実に努めてまいります。

また、錦糸・ときわ地区における津波避難施設の建設は、財政状況などを見極めた上で、しかるべき時期に判断することとし、その間も引き続き民間施設の津波避難ビル改修に向けた手続きを進めるなど、災害対応を図ってまいります。

**河川の保全と環境整備**につきましては、老朽化した護岸などの計画的な改修と、河道内の定期的な浚渫<sup>しゅんせつ</sup>\*や樹木の伐採を行うことにより、流下能力を確保し、近年増加する大雨による災害防止に努めてまいります。

また、二級河川の適切な維持管理に向け、北海道への積極的な働きかけを行ってまいります。

**交通安全の推進**につきましては、4月から自転車による交通違反に交通反則通告制度、通称“青切符”が適用されることを踏まえ、交通ルールの遵守に向けた取組を継続するとともに、次期交通安全計画の策定を進めてまいります。

**防犯対策の推進**につきましては、総合防犯計画に基づき、地域や優先度に応じた通学路などへの防犯カメラの設置を着実に進めるとともに、犯罪被害に遭われた方やその家族の生活再建を支えるため、犯罪

被害者支援条例の制定に取り組んでまいります。

**消費生活の安定**につきましては、若年層に対する実践的な消費者教育を重視し、小学校で行う出前講座を強化するとともに、地域における担い手として、消費生活サポーターの育成を進めてまいります。

**公設地方卸売市場**につきましては、漁港区エリアの在り方を検討する中で、関係者と協議を重ね、老朽化が進む水産棟、青果棟の再整備の方向性を定めてまいります。

## 5 予算編成

令和8年度の当初予算は、社会経済情勢や国の政策動向を踏まえ、市民生活に配慮しつつ、総合計画や選ばれるまちプロジェクトなどに基づく施策に予算を重点化する方針により、主要事業の一般財源は、49億6千万円、早期発注事業として、2億6千万円を計上しました。

以上の結果、当初予算は、

一般会計 90,037,000千円

特別会計 34,306,517千円

企業会計 24,409,354千円

合計 148,752,871千円となりました。

各会計の予算案は、議案第9号から第16号であり、関連する議案は、第20号及び第21号であります。

※各会計予算と関連議案の詳細につきましては、予算委員会において説明します。

## 6 むすび

本市は、先人から引き継がれた海路と空路という、国内はもとより世界に通じる大きな2つの路<sup>みち</sup>があることにより、多様な産業が集積する産業拠点都市として発展してまいりました。

そして今、次世代産業やゼロカーボンといった新たな時代のうねりの中で、本市はまさに、かつてない飛躍を遂げるための重要な局面を迎えています。

私が目指す“選ばれるまち 苫小牧”の実現は、行政の力だけで成し遂げられるものではありません。市民一人ひとりが主役となり、多様な個性が輝き、互いに支え合いながら新たな価値を創造していく、そのような“市民総活躍”の姿こそが、次代を担う子どもたちが自らのふるさとに誇りを持ち、夢を描けるまちの礎となります。

市民や議員の皆様のお力添えをいただきながら、私はどのような困難にも怯むことなく、未来を信じて“挑戦”を続ける強い決意を持って、令和8年度の市政を推進してまいります。

# 用語解説

本文中において「〇〇〇\*」と表示された用語について解説します。

## あ行

### ◆RSウイルス

乳幼児に多い感染症で、かぜのような症状が数日続き、多くは軽症で回復するが、重症化した場合は、細気管支炎や肺炎などを引き起こす。

### ◆医療的ケア児

人工呼吸器による呼吸管理、喀痰吸引、その他の医療行為を、日常生活及び社会生活を営むために恒常的に受けることが不可欠である児童（18歳以上の高校生等を含む）。

### ◆インクルーシブ遊具

障がいの有無や身体能力、年齢などに関わらず、誰もが一緒に楽しめるように設計された遊具。

## か行

### ◆涵養（かんよう）

森林が水資源を蓄え、育み、守っている働き。

## さ行

### ◆サードプレイス

自宅でも職場や学校でもない、人々が心のよりどころとして集う第3の居場所。

### ◆GX（ジーエックス）

Green Transformationの略。温室効果ガスの排出削減と経済成長の両立に向けた社会変革の取組。

### ◆CCS（シーシーエス）

工場や発電所から排出される排ガス中の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を大気放出する前に分離・回収（Capture）し、地中で長期間にわたり安定的に貯留（Storage）する技術。

### ◆CCUS（シーシーユーエス）

CCSとCCU（二酸化炭素の回収・有効利用（Utilization））の二つの技術の総称。

### ◆浚渫（しゅんせつ）

水底や川底の土砂を取り除くこと。

### ◆スポーツツーリズム

スポーツ大会・合宿・イベント等への参加や観戦を目的として地域を訪れ、地域資源とスポーツが融合した観光を楽しむこと。

### ◆スマートシティ

デジタル技術の活用により、生活者の利便性・快適性の向上に取り組む都市。

### ◆ゼロカーボン

二酸化炭素などの温室効果ガス実質排出量がゼロの状態。本市では、まち全体で2050年までの達成を目指す、ゼロカーボンシティ宣言を2021年8月24日に行った。

## た行

### ◆DX（ディーエックス）

Digital Transformationの略。デジタル技術で組織全体を改革し、サービス向上と業務効率化を目指す取組。

## は行

### ◆バイオガス発電

バイオマス（家畜糞尿、食品廃棄物、木質廃材など）の発酵などによって生成されたバイオガスを燃焼して電力を生み出す方法。

### ◆フリーアドレス

職員が固定席を持たず、自由に席を選んで働くスタイル。

## ま行

### ◆Maas（マース）

Mobility as a Serviceの略。地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせる検索・予約・決済等を一括で行うサービス。

### ◆MICE（マイス）

企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字を使った造語。これらのビジネスイベントの総称。

### ◆マイナ救急

健康保険証として利用登録したマイナンバーカードを活用し、傷病者の医療情報等を閲覧できる仕組み。

## や行

### ◆ヤングケアラー

本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども。



**TOMAI**  
**KOMAI**



TOMAKOMAI HOKKAIDO